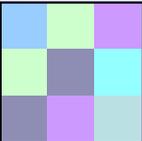


# 留年・退学率を減少させるために

～柔軟に対応できる職員を目指して～

F班2グループ:チーム未来創造



## アジェンダ

1. はじめに

2. 抽出したテーマ

3. 問題解決のためのPDCAサイクル

4. まとめ

## はじめに

### STEP1

各大学の  
問題点を  
抽出した。

### STEP2

問題点の  
いくつかが  
時代に即した  
教職員の  
柔軟性が  
求められる  
もので  
あった。

### STEP3

問題点を  
「情報技術」  
「学生」  
「就業環境」  
にカテゴライズ  
した。

### STEP4

「学生」に  
焦点を当て、  
問題解決  
することに  
した。

## テーマ

単位が  
取れず

授業に  
ついて

授業が  
面白くない

意欲の低さによる留年・退学



情報ツールを活用した授業改善による  
学生の授業に対する意識の向上

## 解決策 (Plan)

- 魅力的なカリキュラム
- 学生にあった授業レベル
- 習熟別学習
- 個別対応・勉強のやり方講座 (初年次教育)
- 計画的な履修指導

教員

へのアプローチ

学生

へのアプローチ

## 手法 (Do)



## 具体例

1 授業の最初に出席を取る。

カードリーダー  
にて管理

2 出席者にだけ、URLが送られる。

3 小テスト・授業評価の  
回答を返信する。

携帯を使用。



## イメージ

今日の授業の理解度は？

100%

80%

60%

40%

20%

## 評価 (Check)

### ① 授業アンケートを取って満足度確認

- 全ての授業が終わった後、携帯電話でアンケートを取り集計を行います。

アンケート一例: ・資料は分かりやすかったか?

・私語・居眠り等があった場合、注意していたか?

・授業が一方通行ではなかったか? ・教員の声は適正だったか?

### ② 毎回の授業の出席率

- 毎回出席を取る事で出席率を管理する事ができます。
- 出席率は授業の満足度を確認する指標になります。

## 評価 (Check)

### ③ 単位取得者の増減

- 前年度の同じ講義と比較して、単位取得者の比率を割り出します。
- 取得者比率を比較することで、授業の理解度の確認ができます。

### ④ 留年・退学者数の増減

- 年度末に前年度末の留年者・退学者と比較します。
- 前年度と比較して減っていれば、満足度・理解度が向上していることになります。

## 改善 (Action)

### Check

~~授業アンケートを取って  
満足確認  
毎回の授業の出席率~~

### Action

不満に思われている箇所  
を改善する  
  
教員のスキルアップ  
環境改善

## 改善 (Action)

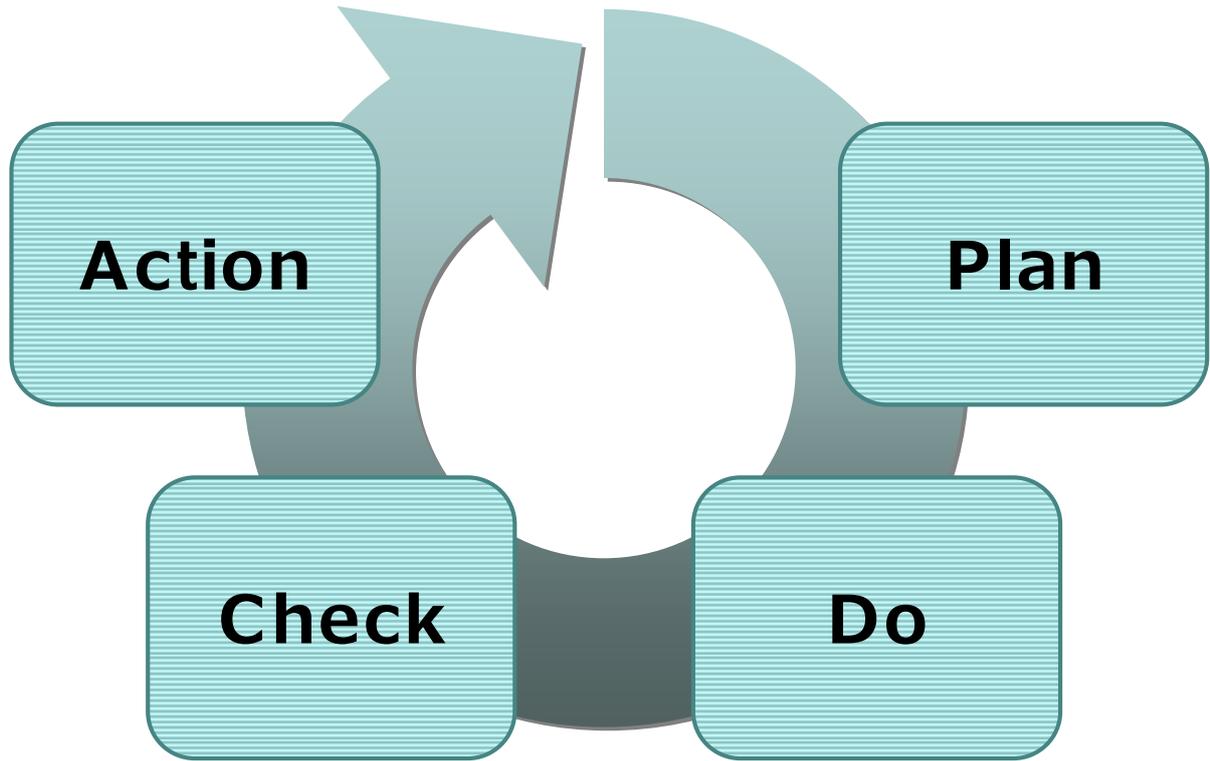
### Check

~~単位取得率の増減~~

### Action

手法の見直し

まとめ



ご清聴ありがとうございました。

F2班:チーム未来創造